

東 亞 天 文 協 會

— (観 測 部 月 報) —

流 星 課 報 告

課 長 小 槇 孝 二 郎

本年(昭和11年)のオリオン座流星群

月明の妨害なく、晴天にめぐまれて今回はかなりよく其の出現を観測することが出来た。現在までに入手してゐる吉井耕一氏、小槇和枝氏、宇野良雄氏等の観測と自分の観測を綜合するに流星數はかなり豊富で、8月ペルセウス流星群の最盛期に比肩し得る程度であつた。自分の観測からは

月	日	時 間	流 星 數	オリオン流星數	Factor
10	21	1 50—2 50 (60)	53	35	1.0
	22	2 39—5 1 (142)	110	81	0.9
	23	1 30—3 0 (90)	61	44	1.0
	24	2 30—5 0 (90)	63	37	1.0
	25	1 0—3 45 (165)	72	20	0.9
	28	3 50—5 5 (75)	31	5	0.9

これによつて見れば21日より24日までは何れも1時間平均20個乃至30個で、極めて顯著なる出現であることが知られる。25日にはづいゝと減少してゐる様である。著しい大流星はなかつたが負1等以上のものは、1時間2〜3個はあつ

た。吉井氏はこの期に同群の流星を4個撮影せられた。自分の観測から得られた輻射點の位置は、右表の如くで No. 1—4迄の位置は精度が高い。

No.	Time (U. T.)	R. A.	Decl.	流 星 數
1	20.72	93.5	+13	8
2	21.77	95	+15	10
3	22.72	96	+16	10
4	23.76	98	+16.5	16
5	24.73	98	+16	7
6	27.81	99.5	+16.5	4

東方移動は確實に決定し得た。輻射面積はあまり廣からず、他にまぎらはしい輻射點はなかつた。

吉井耕一氏の流星寫眞

1934年來流星寫眞に専念されし吉井耕一氏は、本年（昭和11年）4月21日第5回目の成功をされた事は、花山ブレティン317號に發表した通りであるが、氏は其の後7月に2個、8月に3個、9月に3個、10月に10個、合計18個の流星寫眞を得られてゐるが、其の中14個は同時に眼視觀測をされてゐられる。其の中ペルセウス流星群に屬するもの2個、オリオン流星群に屬するもの4個あることは面白い。（小楨）

× × × ×

吉井氏使用の器械はダルメヤ1，ペンタツク F 2.9 のもの、焦點距離は175 耗のものである。乾板はイーストマン50又はイゾクロームを使用されてゐる。

黃道光課通信 (2)

幹 事 寺 町 忠 行

◆黃道光の同緯異經、同經異緯線上に於ける協同觀測計畫

さきにストラトン、ロイツ兩博士を圍んでの第2回黃道光會議が催されましたことは、出席者の一人として私から概報申上げた通りですが、その席上、ストラトン博士の重要な意見の一つとして、同氏が同經異緯、同緯異經の觀測を提出されましたのに基き、熟慮の結果、只今熱心な觀測者の所在せらるゝ地方を出来る限り斟酌しまして下記の如き計畫線を設けました。その線上にある主要地をも附記します。私達の聖戦に御協力下さる方の一人も多く出でられんことを望みます。

第1計畫線 東經 $136^{\circ}50'$ ，北緯 $35^{\circ}15'$ の1を含む兩側各10分以内の線。

主要地、同緯 大原、大貫、横須賀、國府津、瀬戸、名古屋市北部、高宮、大溝、綾部、竹田、八東、根雨、京都北部、朝鮮。

同經 鳥羽安乗崎、犬山、美濃、白鳥、城端、七尾、輪島。

第2計畫線 東經 $131^{\circ}30'$ 、北緯 $34^{\circ}20'$ の1を含む兩側各10分以内の線。

主要地、同緯 伊豆新島、鳥羽安乗崎、和歌山、淡路島、高松、尾ノ道、廣島、境部、對島下島。

同經 宮崎、別府への九州東部、山口、萩。

◆新課員と課員の動靜

光課の新課員として太陽課に活躍してゐられる大石氏を紹介します。

静岡県志太郡吉永村1768

大石 辰次

光課員として御活躍中の窪田氏は勤務の都合上轉居されました。

岡山市本町通4丁目 福助足袋株式會社内

窪田 繁夫

◆南米からうれしい便り

南米に於て驚くべき熱心をもつて御活躍下さつてゐる、大窪氏は今度彼の地に於て御結婚なさいました。紙上から改めて御慶び申上げると共に、益々今後の活躍を御期待申上げます。

◆10月中に於ける黃道光、對日照の觀測

1936年10月中に於ける觀測結果に就て、只今私の手許で分つてゐる分は、15日東天の私と廣瀬氏と同時觀測。私の $4.0 \times M$ に對し $3.0 \times M$ 、21日の本田氏と廣瀬氏の本田氏 $3.0 \times M$ 、廣瀬氏 $4.0 \times M$ にて廣瀬氏は3時45分より4時55分まで4回のスケツチをとられ消長を認めて居られる。23日私の $5.0 \times M$ と廣瀬氏の $4.5 \times M$ にて斷然明るし。24日廣瀬氏の4回スケツチあり消長を認められ、 $4.5 \times M$ 。25日佐野氏の $1.0 \times M$ にて消長あり、26日も同氏 $2.0 \times M$ にて薄明直前 $3.0 \times M$ に見てゐられる。28日は佐野氏一人にて $3.0 \times M$ 。以上の外、廿日市町の淺野氏の指導による長府の方々(益岡君、下村君)から淺野氏に宛てられた御文をいただき、22日5時に“すばらしい黃道光”を二者協同觀測入門と首つひき4人にて見出され、花山に報告を寄せて居られる由、大變力強くうれしく存じます。

◆印刷物を頒つ

光課課報第51號附錄の笹部榮一氏“不規則光斑雜考”、本田實氏“日食と黃道光”日食遠征記が少部數あります。希望者は郵券同封申出下さい。御願ひします。

宛名は 愛知縣西春日井郡豐山村豐場

寺 町 忠 行

遊 星 面 課 月 報 (11月)

木星を低く西天に見送ると、土星が入れ代りに東天高く昇り南中に近づく。宵の西天には金星の燦光あり、曉の東天には火星の妖光ありて、全く以て遊星面課人手妙きを痛感し、徒らに諸星のツキンクルを眺めるのみ。

土星、火星は九州の渡邊恒夫氏の一人舞臺で、15 cm の能力を極度に發揮した鮮やかな見取圖をどしどし送付され、土星に於てはアンサの傾大きくなり、本體との隙間をキャッチされ、火星に於ては、視直徑小さく、未だ小口径の範圍に非ざる小さき Disk 上に、二度迄も白雲の出現を確認され、山本課長をして讃嘆させる凄腕否凄眼を揮はれ、今回微動裝置の完成と共に今後の觀測が見物で、一寸他に眞似の出来ぬ仕事をしておられる。

土星リング消失の觀測については、今迄に度々書かれ、又先號にも木邊幹事の詳細な記事もあり、金星については天界 153 號月報にありますから略すとして、いよいよ曉の東天に思はせ振りな赤色光を點じつつ、日一日接近して来る火星の觀測について、協同觀測のプランの概略を述べておき度い。(詳細は天界1937年3月號の火星特輯號に滿載される筈) 又觀測上の要點は當課回報に發表する。

概略 は：——8 種以上の器械を總動員し、それぞれ口径に適した觀測に従つて頂き、特に随分な數に上るであらう所の 15 cm 級反射鏡の所有者の奮起を促したい。見取圖用紙は當課作製の一定のものを使用し(御申込次第送呈)見たまゝの良心に恥ぢざる眞正直な、そして出來得る限り Disk に對する模様、位置大きさを正しく畫いた見取圖が望ましい。本年度の協同觀測は、1935 年度の如く良い加減の見取圖は全然排して頂き、1 枚々々全力を盡して觀測して頂き度い。枚數の多少は問題でなく、量より質を目標としたい。又自分は小さい器械だからとの遠慮も禁物である。尙新製の火星見取圖用紙の型式は往復葉書型で、何枚か一纏めにして角封筒に入れて送付する様にした。(急な場合には1枚宛にても可、同じく封筒に入れて) 尙見取圖用紙、回報等は、兵庫縣川邊郡雲雀ヶ丘伊達幹事宛御申込下さい。又見取圖の送付も同氏宛の事。

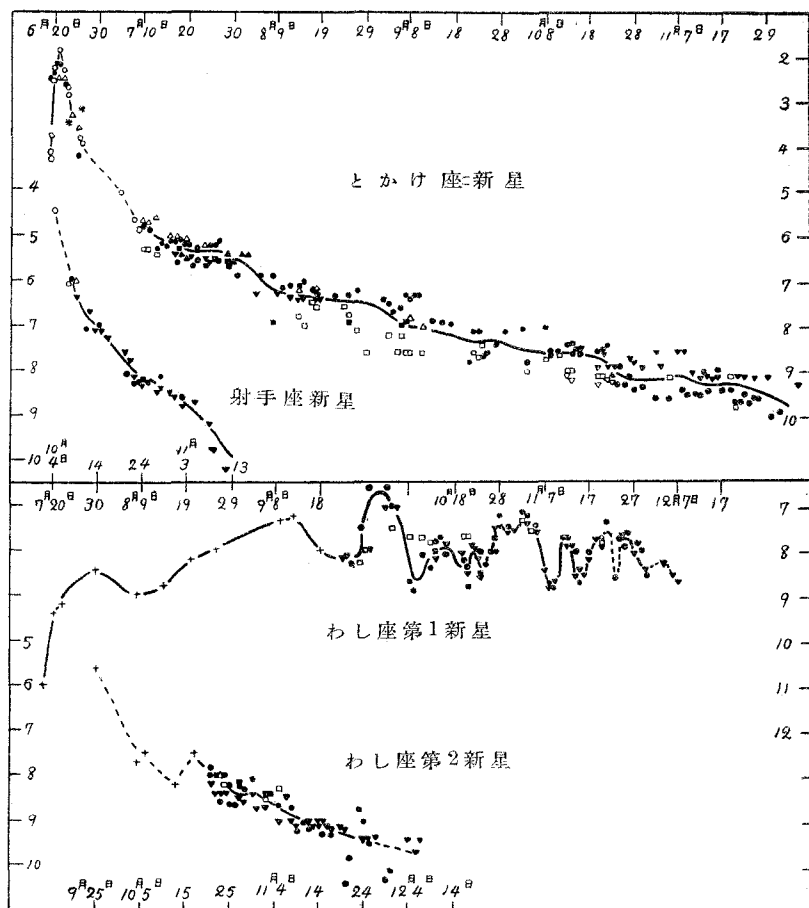
(E. D.)

昨年出現した新星4個の光度曲線

本協會變光星課々員の觀測による。洋細は天界昨年11月號の參照の事。

- | | | | |
|---|---------|---|---|
| □ | 今 | 津 | 績 |
| ● | 木 | 邊 | 成 |
| ■ | 杓 | 掛 | 七 |
| ※ | 小 | 澤 | 喜 |
| △ | 西 | 井 | 宗 |
| △ | 西 | 川 | 英 |
| ▲ | 河 | 合 | 孝 |
| ▲ | 小 | 山 | 秋 |
| + | 外國の寫眞觀測 | | |
| ○ | 東京天文臺回報 | | |

の觀測による。



ミラ型變光星1937年の極大極小豫報

星 名	週期	極 大 極 小 日	星 名	週期	極 大 極 小 日
	日	月 日 月 日 月 日		日	月 日 月 日 月 日
R And	409	9.24	R Leo	315	{ (2.27), 4.28
R Aqr	358	9.19	R Lep	440	{ (翌1. 8)
T Aqr	202	4. 5, 10.24	RS Lib	214	1.24, (8. 4)
Z Aqr	136	2.26, 7.12, 11.25	T Mic	338	4. 9, 11. 9
R Aql	305	8.15	V Mon	333	3.15, 翌2.16
RT Aql	328	10.29	X Mon	156	{ 1. 9, 12. 8
R Cnc	370	5.19	R Oph	302	{ 2.23, (4.10)
V Cuc	272	9.23	R Oph	301	{ 7.29, (9.13), 翌1. 1
R CMi	342	1.13, 12.21	V Oph	301	10.20
S CMi	338	3. 2, 翌2. 3	X Oph	328	(2. 4), 6.23, (12. 2)
		{ (1. 5), 2.25, (4. 6)	S Ori	405	(4. 4), 9.12
T Cen	91	{ 5.27, (7. 6), 8.26	U Ori	377	3. 6
		{ (10. 5), 11.25, (翌1. 4)	R Peg	380	3. 3
		翌2.24	S Peg	320	10.28
T Cep	396	6.23, (12.26)	RT Sge	290	5. 9
O Cet	332	{ (5.22), 9.20	ST Sge	193	9.
		{ (1.11), 4.27, (6.16)	R Sgr	268	2.26, 9. 7, 翌3.19
T Cet	156	9.30, (11.19), 翌3. 5	T Sgr	396	2.23, 11.18
U Cet	237	2. 1, 9. 6	RR Sgr	331	6.19
W Cet	346	5.22	RV Sgr	318	7.18
T Col	224	3.18, 10.28	RR Sco	279	6. 1
R Crv	311	9.10	R Scl	376	5.23, 翌2.26
X Cyg	413	5. 8	S Scl	359	5.14(材料少し)
RZ Cyg	546	翌3.15	R Ser	353	9.28
V363Cyg	345	7. 3	Y Tau	233	10.13
AU Gem	400	3.16	R Tri	265	1.22, (5. 1), 9.12
S Her	313	5.28, 翌4. 6	R Vir	143	5. 2, 翌1.22
U Her	405	7.27	S Vir	377	2.20, 7.13, 12. 3
R Hya	417	(5. 1), 11.15	RS Vir	356	10. 3
S Hya	260	3.18, 12. 3	SS Vir	354	8.10
T Hya	289	5.15, 翌2.28	SW Vir	157	6.29, (12. 7)
V Hya	527	(1.23), 10.27	SX Vul	423	2.23, 7.30, 翌1. 3
W Hya	723	7.17	BD Vul	448	翌1月

〔註〕 括弧内は極小豫定日である。本年は天界177號所載のものに單に周期を加へただけに止めた。

計算是すべて河合孝一氏の手を煩はした。變光範圍は天界175號，又光度曲線の型は同177號，178號を参照の事。

太陽課 黒點相對數報告 (1936年11月)

觀測者(觀測地)	齋藤(臺灣臺中)	久保(高知高等學校)	伊達(兵庫縣雲雀丘)	改發(神戸市關守町)	前田(京都市下京區)	木邊(滋賀縣中里村)	杳掛(長野縣青木村)	清水(靜岡縣島田町)	大石(靜岡縣吉永村)	淺居(橫濱保土谷區)	森久保(橫濱市中區)	山根(東京市青山)	桒淵(東京市立一中)	山名(東京市板橋)	千葉(岩手縣水澤町)	田村(函館市宮前町)
鏡徑耗	50	75	80	150	70	75	102	100	55	58	45	44	58	76	50	100
倍率	50	53	70	68	40	60	75	73	64	60	60	43	50	77	50	67
1	111	曇	曇	154	曇	曇	曇	曇	曇	97	曇	曇	曇	曇	曇	69
2	133	185	146	缺	120	129	146	181	100	105	曇	曇	142	225	82	雪
3	176	208	缺	曇	126	176	135	215	183	175	140	曇	150	232	雨	139
4	186	雨	雨	曇	136	222	115	曇	148	曇	161	曇	114	208	曇	雨
5	曇	234	177	194	147	180	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	120	91
6	缺	247	231	缺	147	205	155	257	205	210	186	曇	曇	曇	168	124
7	163	203	雨	曇	缺	曇	雨	雨	曇	曇	雨	曇	曇	曇	雨	曇
8	161	199	缺	曇	163	174	雨	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	124
9	151	198	179	150	134	181	178	曇	115	118	曇	曇	125	221	曇	曇
10	缺	雨	雨	雨	雨	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇
11	曇	217	167	156	117	146	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	106
12	206	174	154	173	105	157	曇	184	109	173	169	曇	133	206	101	缺
13	170	曇	曇	缺	曇	曇	曇	曇	79	173	缺	曇	175	256	79	104
14	缺	157	136	163	82	146	141	192	曇	138	146	115	135	154	82	曇
15	曇	141	缺	153	110	132	134	缺	113	121	125	缺	曇	缺	80	曇
16	108	135	128	曇	曇	114	曇	144	99	曇	曇	曇	曇	曇	65	曇
17	缺	148	115	123	73	139	104	116	曇	98	92	曇	104	120	74	缺
18	50	121	86	144	61	108	96	108	109	曇	曇	曇	71	147	曇	曇
19	50	70	曇	缺	曇	曇	曇	雨	雨	雨	雨	曇	雨	雨	曇	24
20	41	49	31	48	29	32	曇	曇	27	34	32	曇	53	88	曇	曇
21	32	雨	35	曇	曇	35	35	40	18	43	缺	曇	46	86	曇	26
22	38	21	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	缺	曇	曇	64	曇	雪
23	38	45	49	75	23	40	27	曇	26	曇	22	56	曇	66	曇	30
24	38	57	37	72	34	曇	34	44	32	曇	39	68	89	130	曇	曇
25	68	70	缺	84	32	缺	56	72	28	39	缺	曇	89	73	曇	25
26	曇	106	94	曇	60	89	101	126	曇	曇	曇	雨	123	202	76	曇
27	曇	119	雨	曇	曇	83	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	雨
28	168	194	167	213	89	87	140	132	曇	曇	曇	曇	203	172	曇	曇
29	125	226	171	236	73	162	177	196	121	192	147	176	204	缺	雨	92
30	曇	187	201	242	107	153	145	155	89	197	缺	235	241	276	97	81
日數	20	25	18	16	20	22	18	17	17	14	13	7	17	18	13	15
平均	111	148	128	148	91	133.2	113	133	93	124	96	—	126	171	88	80

● 今月は函館の田村正三氏から新しく報告を受けました。永続されん事を希望します。
 ● 黒點の活動著しく、非常に大きな複雑な黒點群がよく現れますから群の數へ方に御注意下さい。非常に接近してゐても緯度の線ではつきり分離出来る様な場合は群を分ち、さうでない場合は一群にまとめる様に。——● 圖解天文講座第2卷三澤氏の文を課員は皆熟讀せらるべし!!